

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670600018		
法人名	特定非営利活動法人にしいや		
事業所名	グループホームもみじ		
所在地	徳島県三好市西祖谷山村西岡向110-1		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然環境に恵まれたところこ位置している。寒さが厳しい冬季以外は外出し散歩を楽しんだり四季折々の自然にれ季節を感じていただける環境にあり、また畑で旬の野菜を作付け収穫し働く喜びや生育の楽しみ、収穫の喜び、美味しくいただけるありがたさを感じていただける。また、定期的に歯科往診があり、治療や口腔ケアの支援を行っている。月1回理学療法士の指導を得て個別のリハビリを行っている。利用者が心身ともに健康で自分らしく穏やかに生活できるよう一人一人の能力に応じた生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「家庭的な環境のなかで自分らしく穏やかな生活を支援します」という理念を掲げ、利用者一人ひとりが住み慣れた地域で、四季折々の自然に触れながら、楽しみや喜びを持って、その人らしく穏やかに暮らすことができるよう支援している。職員は日ごろから利用者の好みや力を活かしつつ、折り紙や編み物等の作品づくりや調理等で、利用者が活躍する機会を設けている。音楽を取り入れたリハビリや口腔ケアに取り組み、利用者の健康や体力の維持に努めている。運営推進会議では、事業所の活動状況を詳しく報告することにより、出席者から多くの意見をもらい、事業所の運営面や利用者の活動に反映している。職員は、利用者の希望をできる限り叶えることができるよう、そのつど職員間で話しあいを行っている。代表者や管理者は、職員の提案等について、職員の自主性を尊重している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	実践状況	
I. 理念に基づく運営			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「家庭的な環境の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議やモニタリングなどを利用し日常生活での問題や要望などを検討し、理念に基づき検討した内容を職員で共有し支援に努めている。	事業所は、「家庭的な環境のなかで自分らしく穏やかな生活を支援します」という理念を掲げている。朝・夕の申し送りや職員会議で、職員間で理念の共有化を図っている。職員は、理念に立ち返りながら、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動販売車が定期的に来所され、地域住民も一緒に買い物を買ったり、地域の学校、婦人会、地区住協等の訪問があり知人友人に会えることも楽しみにされている。	事業所には、日常的に地域住民の来訪があり、地域の寄り合いの場所となっている。地域の保育所や小学校、婦人会、老人会、ボランティアなどの来訪があり、歌や踊り、手遊びなどをとおして交流している。また、利用者とともに中学校の運動会や文化祭に参加するなど、地域と相互の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験実習等受け入れ、認知症について理解を得るため、実際にふれ合って頂き生き生きと生活をされている姿を見て偏見をなくし理解を深めて頂いている。介護の仕事についても理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告や苦情に関する状況等の説明を行い意見を聞いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の取り組みや利用者の暮らしぶりを伝えている。出席者からは、地域の情報や意見、提案を得ている。得られた意見等は、職員間で話しあい、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議で情報交換を行っている。	職員は、日ごろから市担当者に事業所の方針や現状を伝えている。地域の広域連合とも連絡を取りながら、利用者の暮らし方やニーズについて相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様本位の心のケアを心がけているので、生命に危険が及ぶこと、他の方に危険行為がある以外は行なってはならない事を常々話し合っている。	事業所では、職員間で身体拘束の事例検討などを行い、身体拘束の内容とその弊害について理解を深めている。拘束が必要と考えられる場合でも、職員間で拘束せずにすむ方法を検討しながら、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の施錠をしない、言葉の暴力、肉体的暴力をしない。日常的に申し送り時に確認し合っている。全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については職場内で研修を行っている。 日常生活自立支援事業の利用者も現在1名おられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を説明し十分理解をいただき納得してから契約を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所されたとき、気安く職員に話せる雰囲気作りを心掛け意見や苦情がないか聞いている。御家族からの相談、依頼、苦情については早々に毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に話し合い運営に反映するよう努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者寄りつつ、意見や要望の把握に努めている。家族の来訪時に、声をかけたり、毎月の利用料の請求時に、利用者の心身状況等や介護記録について伝えたりして、意見や要望を引き出す工夫をしている。引き出した意見や要望は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に各職員の意見・要望を聞くように努めている。	事業所では、日ごろの支援のなかや代表者との個別ミーティング等で、職員の意見や提案をきく機会を設けている。出された意見や提案は、職員間で検討し、運営面に反映するなど、職員がやりがいをもつことができる、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、仕事のしやすい環境づくりについて共に協議したり、ねぎらいの言葉や叱咤激励をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、個々のレベルを把握したうえで、質の向上になるよう、職場内研修や職場外研修を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあって同業者との交流は行っていない。地域診療所の声掛けで、行政や各介護職員との交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初の不安解消と安心確保のために可能な限りご本人と関わる時間を作り信頼される人間関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と十分相談し要望等を聞いている。家族の意向も踏まえた計画作りに努め、不安なことや要望等が言いやすい人間関係の構築を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望や要望内容を十分理解しフォーマル・インフォーマル等のあらゆるサービスとニーズとのマッチングに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを目指す中で、役割作りや利用者が暮らしの中心でいられるように本人の能力が十分発揮でき、必要とされるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回、家族と共に食事会を開催している。利用者や家族、職員が意見交換をしながら楽しんでいる。また、家族に月1回、利用者の日頃の生活の様子と写真を送付して近況を把握し安心していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に相談のうえで、本人の要望にできるだけそえるよう努めている。また、利用者の馴染みの地域を散策したりしている。	事業所では、利用者の家族等や友人、知人が来訪した際には、お茶を出すなどして、居室でゆっくり過ごすことができるよう配慮している。馴染みの美容院等の利用も支援している。また、家族の協力を得て、墓参りに行ったり、昔の職場を見に行ったりして、馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の意見を聞き、納得を得たうえで共同生活の中での何らかの能力に応じた役割の支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の相談に応じる等の配慮に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聴取し、センター方式により理解を深めるよう努めている。本人の希望をなるべく生活の中で反映できるよう努めている。	職員は、利用者との日ごろのかかわりのなかで、希望や意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族等や関係者で話しあい、本人本意に検討するなど、利用者の希望をできる限り叶えることができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援経過を把握し、日ごろの生活や計画に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	専用のシートを活用し、日常生活の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専用の用紙や介護記録経過ノートを活用し、本人家族の意向も踏まえ介護関係者とアセスメントと相談した内容を計画に反映している。	事業所では、介護記録経過ノートを活用し、利用者や家族の希望を反映した介護計画を作成している。利用者の心身状況の変化に応じて、計画を見直すなどして、現状に即した、実現可能な介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員間での情報共有をしながらモニタリングを繰り返し実態に即した介護計画づくりに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員から出された意見等職員間で話し合い事業所で不可能なこと等については地区住協等のインフォーマルサービスも検討するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービス事業所として、地域住民の参画をなるべく促せるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、利用者の望むかかりつけ医の受診を支援している。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。市外の医療機関や専門医の受診は、家族の協力を得て支援している。その際には、普段の体調や受診結果を家族と事業所間で共有している。週1回、歯科医の訪問診療もあり、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域診療所や県立病院に相談している。また、利用者の状況に応じて、医師と相談し訪問看護などに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず、入院に至った場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡し要望を聞いている。家族から出された意見や要望は病院との話し合いの中で検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族と主治医と連絡、相談をおこなっている。また、今後の対応について家族と医師、管理者間で話し合いを行っている。	入居時の段階で、利用者や家族に重度化した場合や、終末期における事業所の対応について説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等や医師、関係者等で話し合い、対応方針を共有している。事業所での対応が難しい場合は、必要な機関と連携を図り、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制はできているが、応急手当や初期対応の実践力は十分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は実施している。地域状況(住民の高齢化)もあり近隣住民の協力が得られにくい。	年2回、利用者とともに避難訓練を実施している。利用者一人ひとりの移手段を、居室の入り口に表示し、スムーズに避難できるよう工夫している。事業所は、地域防災の拠点となっており、職員は地域の消防団の一員としても活動している。5日分の備蓄を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が人格を尊重し、誇りやプライバシーの確保を徹底するよう相互確認をし、気づきがあれば注意喚起を相互に行える職場環境に努めています。	職員は、利用者のできることに注目し、利用者が選択し、決定できるよう配慮している。プライバシーを守るために、居室の入り口に、利用者に選んでもらったのれんを設置している。職員間で注意しあえる関係づくりを行ったり、職員会議で勉強会を設けたりして、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の表情や反応に注意し、ご本人の思いや自己決定を察知できるよう注意深い観察を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のあり方を原則として、利用者にあわせた日々の過ごしたかができるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に合わせてオシャレができるよう柔軟な支援を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者の能力に合わせた食事作業へに関わりに参加して頂き、楽しみながら一連の共同作業を心掛けている。	事業所では、利用者と職員が相談して献立を決めている。郷土料理や季節の行事食を取り入れるなど、食事が楽しみなものになるように工夫している。食事の準備や後片付け等、利用者一人ひとりの力量に応じて手伝ってもらうことで、生活に張りができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日ごとの食事・水分摂取量は記録し、体調管理や体重管理を行いメニュー等の工夫につなげている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、利用者の能力に応じた口腔ケア支援を心掛けている。また、歯科衛生士や歯科衛生士による定期受診を行い利用者ごとの口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレ利用を基本に個々の利用者に応じた頻度回数に対応を心掛け、排泄の自立支援に取り組んでいる。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導を心掛け、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は、安眠を妨げることのないよう、利用者一人ひとりにあわせた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や家族からの情報収集も行い自然排便を促すための工夫に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り利用者の希望に合わせた入浴タイミングを調整できるよう工夫し、入浴が楽しくなるような時間帯となるような支援を心掛けています。	事業所では、利用者一人ひとりの希望にあわせて、週3回の入浴ができるように支援している。着替えを自分で選んでもらうなどして、入浴が楽しみになるよう工夫している。入浴を拒む利用者には、声かけのタイミングや時間、日を変えるなどして、無理強いすることなく、入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態にあわせた安眠・休憩によるよう状態に応じた対応を心掛けています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の用法・用量・副作用等を理解したうえで服薬確認と状態の経過観察を行い医療機関受診時に報告を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割づくりや楽しみづくりの支援を行い生きがいや張り合いを見いだせるような支援を目指しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が住慣れた他地域出かけて散歩したり、季節に応じた外出の支援をおこなっている。	事業所では、気候の良い日に周辺の散歩等に出かけている。家族の協力を得て、外泊することもある。近隣のイベント広場には定期的に出かけ、買い物や食事をしている。また、紅葉狩りなどの季節に応じた外出も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理していただいている方もいるが、困難な方は家族と相談し管理方法を確認(日常生活自立支援事業の利用や小遣い程度の施設管理)し、本人の希望に沿った買い物等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により外部との交流支援(電話が主体)を行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの畳の間に炬燵を設置し、野外の様子を窺えるようにしている。テラスには、長椅子を置き、利用者が野外を見ながらゆったりとくつろぐことができる。	居間は、調理の音やにおいが漂い、明るく、清潔感がある。床暖房や加湿器を活用し、快適な温度や湿度を保っている。壁面には、利用者の作品や行事の写真、近隣の小学生から贈られた作品を飾っている。利用者がのんびり会話をしながら過ごすことができるよう、廊下に椅子を設置するなどして、居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広めに設計されており、通路にソファが設置されている。また、テラスや玄関の長いすで利用者同士が会話を楽しむことができる空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた馴染みの品物を持ち込んで生活している。	居室には、利用者の馴染みの家具や調度品を持ち込んでもらっている。写真や手芸など、趣味の作品を飾っている居室もあり、利用者一人ひとりの個性を感じることができる居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を貼り、よく行く場所にはマークを付けるなどの工夫をし、分かりやすくしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「家庭的な環境の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議やモニタリングなどを利用し日常生活での問題や要望などを検討し、理念に基づき検討した内容を職員で共有し支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動販売車が定期に来所され、地域住民も一緒に買い物をされたり、地域の学校、婦人会、地区住協等の訪問があり知人友人に会えることも楽しみにされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験実習等受け入れ、認知症について理解を得るため、実際にふれ合って頂き生き生きと生活をされている姿を見て偏見をなくし理解を深めて頂いている。介護の仕事についても理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告や苦情に関する状況等の説明を行い意見を聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議で情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様本位の心のケアを心がけているので、生命に危険が及ぶこと、他の方に危険行為がある以外は行なってはならない事を常々話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の施錠をしない、言葉の暴力、肉体的暴力をしない。日常的に申し送り時に確認し合っている。全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については職場内で研修を行っている。 日常生活自立支援事業の利用者も現在1名おられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を説明し十分理解をいただき納得されてから契約を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所されたとき、気安く職員に話せる雰囲気作りを心掛け意見や苦情がないか聞いている。御家族からの相談、依頼、苦情については早々に毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に話し合い運営に反映するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に各職員の意見・要望を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、仕事のしやすい環境づくりについて共に協議したり、ねぎらいの言葉や叱咤激励をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、個々のレベルを把握したうえで、質の向上になるよう、職場内研修や職場外研修を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあって同業者との交流は行っていない。地域診療所の声掛けで、行政や各介護職員との交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初の不安解消と安心確保のために可能な限りご本人と関わる時間を作り信頼される人間関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と十分相談し要望等を聞いている。家族の意向も踏まえた計画作りに努め、不安なことや要望等が言いやすい人間関係の構築を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望や要望内容を十分理解しフォーマル・インフォーマル等のあらゆるサービスとニーズとのマッチングに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを目指す中で、役割作りや利用者が暮らしの中心でいられるように本人の能力が十分発揮でき、必要とされるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回、家族と共に食事会を開催している。利用者や家族、職員が意見交換をしながら楽しんでいる。また、家族に月1回、利用者の日頃の生活の様子と写真を送付して近況を把握し安心していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に相談のうえで、本人の要望にできるだけそえるよう努めている。また、利用者の馴染みの地域を散策したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の意見を聞き、納得を得たうえで共同生活の中での何らかの能力に応じた役割の支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の相談に応じる等の配慮に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聴取し、センター方式により理解を深めるよう努めている。本人の希望をなるべく生活の中で反映できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援経過を把握し、日ごろの生活や計画に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	専用のシートを活用し、日常生活の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専用の用紙や介護記録経過ノートを活用し、本人家族の意向も踏まえ介護関係者とアセスメントと相談した内容を計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員間での情報共有をしながらモニタリングを繰り返し実態に即した介護計画づくりに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員から出された意見等職員間で話し合い事業所で不可能なこと等については地区住協等のインフォーマルサービスも検討するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービス事業所として、地域住民の参画をなるべく促せるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、利用者の望むかかりつけ医の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域診療所や県立病院に相談している。また、利用差の状況に応じて、医師と相談し訪問看護などに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず、入院に至った場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡し要望を聞いている。家族から出された意見や要望は病院との話し合いの中で検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族と主治医と連絡、相談をおこなっている。また、今後の対応について家族と医師、管理者間で話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制はできているが、応急手当や初期対応の実践力は十分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は実施している。地域状況(住民の高齢化)もあり近隣住民の協力が得られにくい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が人格を尊重し、誇りやプライバシーの確保を徹底するよう相互確認をし、気づきがあれば注意喚起を相互に行える職場環境に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の表情や反応に注意し、ご本人の思いや自己決定を察知できるよう注意深い観察を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のあり方を原則として、利用者にあわせた日々の過ごしたかができるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に合わせたオシャレができるよう柔軟な支援を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者の能力に合わせた食事作業へに関わりに参加して頂き、楽しみながら一連の共同作業を心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日ごとの食事・水分摂取量は記録し、体調管理や体重管理を行いメニュー等の工夫につなげている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、利用者の能力に応じた口腔ケア支援を心掛けている。また、歯科衛生士や歯科衛生士による定期受診を行い利用者ごとの口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレ利用を基本に個々の利用者に応じた頻度回数に対応を心掛け、排泄の自立支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や家族からの情報収集も行い自然排便を促すための工夫に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り利用者の希望に合わせた入浴タイミングを調整できるよう工夫し、入浴が楽しくなるような時間帯となるような支援を心掛けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態にあわせた安眠・休憩によるよう状態に応じた対応を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の用法・用量・副作用等を理解したうえで服薬確認と状態の経過観察を行い医療機関受診時に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割づくりや楽しみづくりの支援を行い生きがいや張り合いを見いだせるような支援を目指しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が住慣れああ他地域出かけて散歩したり、季節に応じた外出の支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理していただいている方もいるが、困難な方は家族と相談し管理方法を確認(日常生活自立支援事業の利用や小遣い程度の施設管理)し、本人の希望に沿った買い物等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により外部との交流支援(電話が主体)を行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの畳の間に掘炬燵を設置し、野外の様子を窺えるようにしている。テラスには、長椅子を置き、利用者が野外を見ながらゆったりとくつろぐことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広めに設計されており、通路にソファが設置されている。また、テラスや玄関の長いすで利用者同士が会話を楽しむことができる空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた馴染みの品物を持ち込んで生活している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を貼り、よく行く場所にはマークを付けるなどの工夫をし、分かりやすくしている。		